

【 本文の記載分量 】

新任 → 1枚 (注：2/3、半分、1枚以上は不可)

再任 → 2/3程度 (注：1枚、半分、1枚以上は不可)

2021年1月28日人事委員会より施行

▲▲▲研究機構

20●●年度 研究教員任用理由書( 新任/再任 )

【 本務 】

<候補者1> 立命 花子 氏 (□□□大学・准教授(特任))

立命花子氏は、  
研究科□□専攻に  
(Pan troglodytes  
動科学科認知情報  
2004年4月に就職  
バイオロジーに論  
本格的な野外調査  
揮している。2014  
研究機構\* \*研究  
命太郎教授とともに「食品の機能性成分と人の認知との関係を探る」という新しいテーマに取り組み、機能性成分等、食品などについて短期間で成果を挙げた。

↑ 【 候補者：氏名、現職(所属機関・職位)欄 ↑

※この行は全てMSゴシック/基本10.5pt

※「氏名」は、漢字(10.5pt)、ふりがな(5pt)記載

※氏名のふりがなは、以下の表記で記載

・日本人は、ひらがな

・外国人は、カタカナ

※現職について

現在の所属期間と職位を記載し、括弧は文字属性の( )で記載し、  
描画の括弧で記載しないでください

今回、同氏にはA B会社との共同研究で積極的な推進を担っていただく。このプロジェクトを実現するためには本大学の他分野の教員、A B会社側の研究者、多くの料理人との協力が必要である。このような異業種のグループを束ねて、成果を上げるためには、同氏のこれまでの研究経験によって培った研究運営能力と応用能力が必要である。また、一流の料理人の行動を客観的に観察し、重要な情報として抽出することが本研究の重要な鍵となることから、霊長類の観察や食品安全についてのweb調査など幅広い研究経験を持つ同氏は本課題にとって最適な人材である。

以上のことから、同氏を研究教員(教授/准教授/助教)として任用したい。

↑ 文末締めくくり文(青字は固定文言) ↑

【 本文の記載方法について 】

■1. 氏名の記載方法について

氏名は、最初の1行目のみ漢字フルネームで記載し、2行目以降は、「同氏」と記載

■2. 立命館大学の記載方法について

「本大学」と記載

\*注：ただし、研究センター名(立命館大学○○センター)等の正式名称記載、その他理由で、あえて大学名を記載する場合を除く

【研究教員（新任）の記入例】 本文の分量は1枚作成

立命館アジア・日本研究機構

20\*\*年度 研究教員任用理由書（新任）

【本務】

＜候補者1＞ <sup>りつめい たろう</sup>立命太郎氏（株式会社〇××〇 代表取締役 CEO）

立命太郎氏は、〇\*\*〇大学経済学部を卒業後、A B C D E F G・H I J K証券株式会社〇〇〇〇部門で大手顧客企業の資金調達支援を担当、その後、京都五郎氏の誘いで株式会社□W X □・△Y\*\*\*Z△に転じ、同社が設置する株式会社立の大学・大学院である□W X □・△Y\*\*\*Z△大学、同大学院（日本初のオンライン経営大学院）において、遠隔講義コンテンツの制作と進行役のキャスターを務めた。その後、育児休暇を挟み、米国ベンチャー企業の日本法人設立にあたってカンントリーマネージャーを務め、1992年にスタートアップの経営支援やブランディングを支援する企業、株式会社〇\*\*〇を共同設立、現在、代表取締役 CEO を務めている。

スタートアップには斬新なアイデア発想とスピード感ある展開という強みがある一方、ヒト・カネ・モノなどのリソースが不足しているため、独創的なアイデアが生まれても、それを具現化し、成功確率を上げながら社会に浸透させていくプロセスで躓くケースが多に多い。つまり、スタートアップの事業成長には、圧倒的なスピード感に加えて、絶えず変化する事業成長の各局面にいかに適切に対応するかが非常に重要になる。同氏は、スタートアップの事業成長の各局面に対して、ギルド型（必要な場面で、適切な人材を送り込む形）の支援スキームを構築し、ブランディング、資金投資、事業開発等、各分野の専門家を〇\*\*〇社に集積した。同氏は同社経営の傍ら、自らも資金投資の判断、SPC（特定目的会社）の設立支援、投資家や VC（ベンチャーキャピタル）とのマッチングなど、主としてファイナンス領域からスタートアップのブランディングと事業成長スキームの構築に注力している。

同氏は、研究成果の社会実装という局面で、スタートアップの事業成長と同様の課題があると考え、大学等研究機関における研究のブランディングにも注目している。本大学においては COI（センター・オブ・イノベーション）プログラムの研究成果の社会実装、特に CX（顧客体験価値）の訴求のあり方について同氏から知見提供を受けている。

本大学アジア・日本研究機構においては、この間着任いただいた京都六郎客員教授、立命十郎客員教授らの取り組みにより、△△X Xプログラムの企画運営や学生ベンチャーコンテストのメンタリング等を通じて、研究シーズの事業化や学内構成員の起業に対する支援等の推進が図られてきた。同氏は、スタートアップ支援の新たなスキーム構築を通じて、上述の京都氏や元△△△CEO の滋賀一郎氏らをはじめとする有力経営者から直接指南を受け、また国内外の著名投資家や有力 VC から注目期待を集める新進気鋭の経営者である。その業務実績や知見、人脈をふまえ、本大学における研究のブランディングの推進はじめ、関連するスタートアップの創出や事業成長に対する支援など、アジア・日本研究機構によるオープン・イノベーションの推進と社会的価値の創出に、有意な貢献を得ることが期待できる。

以上のことから、同氏を研究教員（教授）として任用したい。

【 研究教員（再任）の記入例 】 本文の分量は 2/3 程度

総合科学技術研究機構

20\*\*年度 研究教員任用理由書（再任）

【本務】

<候補者1> Galileo Galilei 氏（総合科学技術研究機構・研究教員（准教授））

Galileo Galilei氏は、平成13年3月に□□大学 経済学部 国際経済学科を卒業後、平成15年まで、青年海外協力隊として○XXX○大統領府\*\*開発研究所に派遣され、地方行政改革のワークショップ（主に統計部分の担当）をABCD大学で主催し、研究所に所属する学生を対象に統計学、経済学、パソコン入門のシラバスとマテリアルを作成し授業（生徒数約300名）を担当されました。

同氏は、平成17年から米国□ZZZ□大学にて公共政策学を学び平成18年に修士号を取得後、博士課程に入学しつつ世界銀行や□ZZZ□大学付属の地球研究所に勤務し、○XXX○での経験を、政策レベルのマクロの視点に置き換え、経済、教育、保健政策の評価を実施されました。この間同氏は、結婚・出産のために博士課程を一時中断しましたが、家族の病気に立ち向かう中で、専門分野を開発経済分野から医療分野へとシフトされました。

平成22年から、AB大学医学部△△△医療センター・\*\*医学教室で特任助教として勤務し、社会医学演習、環境医学教室ゼミナール（Introduction to Statisticsと、臨床研究入門の講義）、臨床試験概論を担当されました。同氏はその後、平成25年4月から□□総合病院 臨床研究支援室 副室長を勤めつつ、○XXX○大学の博士課程で学習を続け、医療経済学、計量経済学を専門としました。

平成27年より講師として勤務をしている□\*□国際大学 公衆衛生大学院では、疫学実習、臨床疫学、慢性疾患疫学の講義を担当し、4名の修士論文を指導しました。平成28年には、研究代表者として「XXXを活用したABCDE症早期発見のための□□判定システム構築と\*\*対△△分析」で文科省科学研究費（若手B）を取得し、研究結果として査読付きの英文誌に掲載するとともに、開発したシステムについて特許申請を行い、さらに、XY総合病院や、□\*□国際病院に勤務する臨床家との共同プロジェクトも多く実施してきています。本大学においては、令和元年5月より、わが国で初めての公的分析機関として国立保健医療科学院より認定され、設立された総合科学技術研究機構○\*\*○評価・△△△△ユニットにおいて、客員研究員として、さらに同氏は10月より准教授として所属し、医薬品・医療機器の費用対効果に関する数多くの成果をあげておられます。

以上のことから、同氏を研究教員（准教授）として任用したい。